

「和」の文化をもっと世界へ発信

— 政府開発援助（ODA）等に関する特別委員長・参議院議員松下新平氏に聞く

若い頃から中国との交流に深い思いを持っていた松下新平氏は、政治家になってから本格的に中国との交流を重ねてきた。日中をまたぐ長年の経験を持つ松下氏に日中両国のあるべき姿、青少年交流、これから両国が世界に果たすべき役割等お話をうかがった。

（まつしたしんぺい）

松下新平



1966年宮崎県生まれ。2004年参議院議員初当選。総務副大臣兼内閣府副大臣（第3次安倍第1次改造内閣）、国土交通大臣政務官（第2次安倍内閣）、宮崎県議会議員（2期）を務めた。2011年6月～参議院災害対策特別委員会委員長。2016年6月～囲碁文化振興議員連盟幹事長。2018年～自民党外交部長。2019年9月～自民党財務金融部会長。2020年10月～政府開発援助（ODA）等に関する特別委員長・参議院議員。



後方の写真は宮崎青島、中国山東省青島市と経済協力パートナーでもある

先生の政治家としてのポリシーと理念を教えてくださいませんか？

私は参議院議員として2004年から着任し、2021年で17年目です。いわゆる国会議員の二世ではなく、叩き上げと言いますか、階段を一段ずつ登ってきたという感覚はあります。

政治の役割とは何かを常に考えて、「本当に困っている人のために政治はどう答えるか」ということが私の原点です。そして、悪いものに対しては毅然として立ち向かうのが私のスローガンなんです。

「気は優しく力持ち」、そういう日本を作りたくて、政治活動をしています。その原点は国会議員になった今でも大切にしていますし、努力していきたいと思います。

初めて中国にいらっしやっただきっかけはなんでしょう。

30年ほど前、九州の若者たちをひとつの団にして中国の若者と交流する「九州青年の船」という事業がありました。言葉は通じなかったけれど日中の若者が思いをぶつけ合い、それぞれ様々な郷土の出し物をしたりして交流したんですね。言葉は分からなくても通じ合っている若者たちの様子が非常に印象深く、よく覚えています。

政治家としての中国との関わりについて教えていただけますか？

4年前、浜田和幸先生(当時参議院議員・政治学者)に誘われたことがきっかけで日中関係に携わるようになりました。浜田先生は長年日中の政治活動をされて中国語も堪能だった方ですが、引退されるということなので私が引き継ぐ形で正式に関わることになったのです。

頻繁に中国にいらっしやっって、一番感じたことはなんでしょう？

やはり中国のスケールの大きさと中国大陸の歴史を再認識しました。GDPも2010年には日中が



「東京タワーレッドライトアップ2020」イベントに出席

並んでいましたが、今はもう3倍以上で、経済発展のスピードとマーケットの広さなどありとあらゆるところから見て取れますよね。それは私からすると、とても驚きであり、刺激的でした。中国は広いので、これからも足を運んで理解を深めて行きたいと思っています。

自民党の外交部会長と文化振興の議員連盟の幹事長も務めているため、2019年は10回ほど、中国のあらゆるところに行きました。四川省の成都には中国側の主催による「囲碁」交流会で行きましたが、私の故郷である宮崎県は基石の原料ハマグリ産地で囲碁が盛んなため、国会に入ってからもうそういう活動を続けてきたんですね。少し前には、日中韓のサッカー交流があり、その時は私は「ゴールキーパーをやっていました。習近平国家主席も子供たちのサッカーに力を入れてるので、子供たちと国同士の理解を育てています。

また、私の生まれ育った宮崎市には、「青島(あおしま)」と呼ばれる地域があり、山東省の「青島(チンタオ)」と交流をしています。青島(チンタオ)ビール祭りになると、そのサテライト会場の一つとして、宮崎の青島(あおしま)も一緒にやるんです。2020年は開催できませんでしたが、10年以上前から行われており、観光客も政府メンバーの往来もあるので毎回賑わいます。どちらも漢字文化ですから、「青島」という共通の漢字を見ただけですごく親しみを感じますね。

地方都市で私が感動したのは、少数民族に向けて推進している「一村一品運動」です。中国では少数民族の人口が約一億人と言われ、政府は彼らのための「一村一品運動」政策に力を入れています。もともとは、大分県の平松守彦知事が提唱されたものですが、中国では少数民族の人々が国の支援を得ながら、民族の伝統文化に即した品物を作ってそれを販売することに、少数民族への理解と経済運動を両立させています。すごく感動しましたし、また日本でも紹介して行きたいですね。

中国の歴史や文化、人物の中で最も関心があるのはどのようなことですか？

日本文化はもともと中国大陸から渡ってきたものが占める割合が多く、現代では中国で途絶えた文化を日本が大事に守っていることが分かり、逆に中国の方に見ていただくという交流もあります。



上/(2019年)「西冷学堂」日本公開講演会に参加
下/(2020年)日中現代芸術展開幕式に出席

この中国から伝来した日本の文化を再発見して、日本が文化を継承してきたということを国民に広く認識してもらいたいですね。コロナ禍で心が沈みがちなときにも、文化・芸術といったものは心を豊かにしてくれると思いますし、これから我々の交流の土台、ベースとして文化が力を発揮してくれるんじゃないかなと思います。

環境もいい」という評価も頂きました。日本人も同じで、旅行やビジネスで中国に足を運び、自分の目で見て体験することが大事です。

中国の方は、まず皆さんすぐエネルギッシュでパワフルです。在日華僑華人の方とも交流があります。皆さんは強いですよ。「コロナに負けない、自分たちはもっと苦勞もしてきたし、一起加油(一緒に頑張ろう)」というのが伝わってくるんですね。だから会話も明るいし、日本が見習うべき点だと思いますね。

先生からご覧になって、日中関係のあるべき姿はどのようなものでしょうか。

私は日本にとってこの5、6年は特に中国との関係が非常に重要になってくると思います。親中か反中かといった色分けではなく、文化交流やスポーツ交流など、どのように交流するかは日中両国で膝を交えて進めていくことが大事だと思いますね。

歴史人物の中では、日中の絆を結ばれた周恩来首相がとても印象に残っています。また、江戸時代に隠元禅師が伝えた黄檗文化について知る機会があり、インゲン豆など私たちに身近なものがあつたこと、沖繩と長崎が窓口となり、その文化が京都の萬福寺に大切に継承されていたことを改めて知りました。黄檗文化も含め、そういった事柄を知らない方が多いのが今後の課題ではないかと思っています。そういう文化は非常に尊いことですし、国としてサポートしていきたいと思っていますね。

民間レベルでは、日本と中国の相互理解をどのように深めるべきだと思われませんか？

僕はWeChatを使っていろんな交流をしているのですが、すごく便利ですよ。中国からたくさん観光客が来て、日本もインバウンドで潤いました。その中で日本に対する「日本は親切だ、食べ物も美味しい、

文化や歴史を紐解くと、まさに温故知新ですが、やはり私たちは歴史に学ぶことがたくさんあると思いますし、またその子供たち、そして孫の代まで伝えていかなくてはいけないと思います。いかに中国と日本の結びつきが強いかということを考えてね。

今、5年間で3万人規模の青少年交流事業が始まっています。やはり子どもたちは吸収力があつてすぐ仲良くなるし、彼・彼女たちが大人になった時に、多くの日本文化が中国から来たことを理解し、そして

国際交流を大事にしてもらえると思えますから、非常に期待をしています。

ただ、今の日本の若い人たちが、あまり夢を持たなくなつたというのは気がかりです。若い人はお



(2020年)中国大使館・日中友好団体新年会に出席

金も経験もなくとも、希望をもって未来志向であつて欲しいと思います。中国、アジア、ASEANの若者が夢を語る姿を見て、日本の若い人たちが刺激を受けて、また一緒に頑張れたらいいと思います。

今後日本と中国がそれぞれ世界で果たす役割は何だと思われませんか？

まず中国はデジタル社会に相当力を入れて実績も積まれていますね。10億人を超えるマーケット、人口規模は他の国にはないものですから、当然この国際社会での役割も出てくると思います。日本も今まで積み上げた技術力や貢献力がありますから、日中が協力して世界に貢献していく枠組みを作って行きたいです。

文化でも、東洋の文化は歴史もあり、スケールも大きいので、評価されて欲しいですね。新型コロナを経験して、東洋の文化の奥深さと素晴らしさ、特に「和」の文化に気づかされたと思います。この「和」の文化を

ぜひまた世界の皆さんにも広めていきたいし、そのことが世界の平和につながるような気がしますね。

新型コロナで世界は一変しました。その影響についてどう思われますか？

振り返ってみると、中国の武漢で発生した後、2020年最初の1月頃は中国へ日本からマスクなども提供して、その後中国の方も日本に感謝して相互支援に取り組んで、非常によかったですよね。今は日本を含む世界中にウイルスが拡がっていますが、これは国際社会の仕組みがグローバルになっていましてから当然ですね。我々人類がそういったものに打ち勝つにはいろんなやり方がありますが、まず国同士が協力し合うことが大事です。今回私はODAの特別委員長に就任したので、世界の国が一つになって、共通の課題である新型コロナウィルスを退治するスキームを作っています。

最後に、日中交流に対するメッセージ、期待を一言お願いします。

今回のコロナ禍に於いて、世界の景色は一変しましたが、今、私が一番大事にしたいことがあります。10年後の未来から見た時に、人と人の距離はあったけれども、人と人の気持ちは優しく、近くなった、と言えるようにしたい。

特に中国とは、この新型コロナと一緒に乗り越えて、あの時は大変だったけれども、中国と日本の結びつきは本当に強くなったよねと言われるようにしていきたいと思います。

私は2019年の「一带一路のフォーラム」にも参加しました。ぜひ今後も、日中関係に力を入れ、二階俊博幹事長をはじめとする大先輩方とともに、またさらに次世代の国会議員の仲間とご一緒する場を作りたいと思っています。



左/毎年1月に召集される通常国会において、天皇陛下の御臨席を仰ぎ参議院本会議場にて開会式が行われ、和装でお迎えした 右上/2019年、第2回日中韓の国会議員による囲碁交流会が四川省成都において開催された。元世界チャンピオンの常昊9段による指導碁 右下/(2019年)崔如琢芸術杭州展示会に参加